

テーマ2 高齢者がいきいきと暮らし働くことができる地域づくりについて

〔提案理由〕

- ・中期行財政運営ビジョンでは、「いきいきと暮らし働くことのできる大分県」を政策目標に掲げ、取組の柱の一つである「高齢者の知恵と経験を生かした元気な大分県の実現」において、「高齢者の豊かな知恵や技術を様々な場面で生かすこと、高齢者自身の健康・生きがいづくりや就業確保」に取り組むこととしている。
- ・本県の高齢化率は、25.8%で全国平均の22.1%を上回っており、全国10番目、九州では、鹿児島県に次ぐ高い数字となっているが、このことは逆に豊富な知識と経験を積み重ねた高齢者が多いという『大きな強み』でもある。
- ・しかし、その大きな強みを放課後子どもプランや託児サービスの担い手などとして、十分に生かし切れていない。
- ・また、高齢者の自主的組織として社会参加や生きがいと健康づくりに取り組んでいる老人クラブにおいては、近年、会員の高齢化が進み、役員のなり手がいないこと等から活動休止や解散する例もあり、クラブ数、会員数とも減少傾向にある。
- ・このため、今後一層の高齢化が予想されるなか、多くの高齢者が生きがいをもって就労を含めた様々な社会活動に参加できるスキームや環境を整えることが課題となっている。

〔県民の声〕

- ・現職の時のノウハウを生かして社会活動を行いたいけどどのようにすればいいのか。
- ・自分の経験を生かして子育てや児童・生徒への手助けがしたいが・・・。
- ・若い人は地域との関わりがすごく少なく、子育てなどで困っているときに相談する人がいない。
- ・決まり事の多い団体に加入するよりも、気心の知れた者同士で趣味や健康づくりのための活動をやった方が楽しい。
- ・老人クラブで活動しているが、活動の世話をしてくれる人や役員のなり手がなくて困っている。
- ・ビデオ作成に関する技術を持っているが、その技術を生かしながら社会への貢献といくらかでも収入が得られれば良いのだが・・・。

〔議論のポイント〕

(1) 高齢者の知恵と経験を地域で生かすための取組について

- ・豊かな知識や技術を持つ高齢者人材を発掘し、地域において不足している子育て支援や児童・生徒の学習指導等の様々な場面にマッチングするための方策について。

(2) 高齢者自身の健康・生きがいづくりや自己実現を図る仕組みづくりについて

- ・退職間もない団塊世代など誰もが進んで参加し活動したくなる魅力ある老人クラブづくりと、個々のライフスタイルに応じて働く仕組みや社会活動へ参加する仕組みづくりについて。

〔議事概要〕

（地域づくりのあり方）

- ・高齢者が地域の役に立ちたいと考えたとき、組織というよりも、自由に入っていける「場」というか、敷居が高くなく気軽に参加できる仕組みを検討できないか。
- ・高齢者に限らず、若い方もいれば、子どももお年寄りもいるというような、年代で区切らない、世代を超えた柔軟な活動が行えればいい。

（老人クラブ）

- ・老人クラブというネーミングが悪い。地域に必要な組織とは思いますが、「老人」は嫌だから、取っつきにくく、入会しにくい。何かすごく良いイメージを持つ、教室的な小グループをだんだん発展させていくと良いのではないか。
- ・元気にいきいき活動するだけでなく、老いていくことの苦しさや悲しさ、時代が変わっていくことへの不安など、精神的な部分を分かち合う活動にも取り組むべきではないか。
- ・いまの60代はまだ若く、パワフル。現役でやっている方も多いため、年齢の縛りを見直してはと思う。

（シルバー人材センター）

- ・高齢者を「ただ」で使おうと思わず、一般の事業所、企業とシルバー人材センターをしっかりと結びつけ、その方々の収入につながるよう期待している。
- ・多様な技能、技術、専門知識を持った方々だが、ちょっと遠い存在に思える。もっと身近に感じられるよう、実際の活動（剪定や子育ての応援）を映像で見せるなど、安心して仕事を頼めるようなPRをしていけばいい。
- ・子育て支援策として、育休で休む方の仕事をうまくカバーするような活動ができるようになるといい。

（高齢者の経験を生かす具体的な取組）

- ・高齢者が子どもたちに、昔からの遊びや草履づくりなどの日本文化を伝承したり、風化しつつある戦争体験を聞かせることはとても大事だが、高齢者に謙虚な方が多いので、参加しやすくなるよう地域での環境づくりに取り組んで欲しい。
- ・高齢者は子育てのプロだから、保育所等において、ゼロ歳児保育との関わりを大いに推進して欲しい。
- ・大人が見ているとわかると、子どもたちは安心するので、登下校や公園での遊び、学校が終わってから指導者が来るまでの「見守り」をお願いすると良い。
- ・子どもや高齢者などの目線で、危険箇所の点検をして欲しい。

（その他）

- ・我々は、老人クラブや高齢者のボランティア、生きがい、社会活動などについての本当の声というか、意識を把握できているのかと思う。県で高齢者の意識調査を行えば、それを元にした新たな施策が考えられるのではないか。